

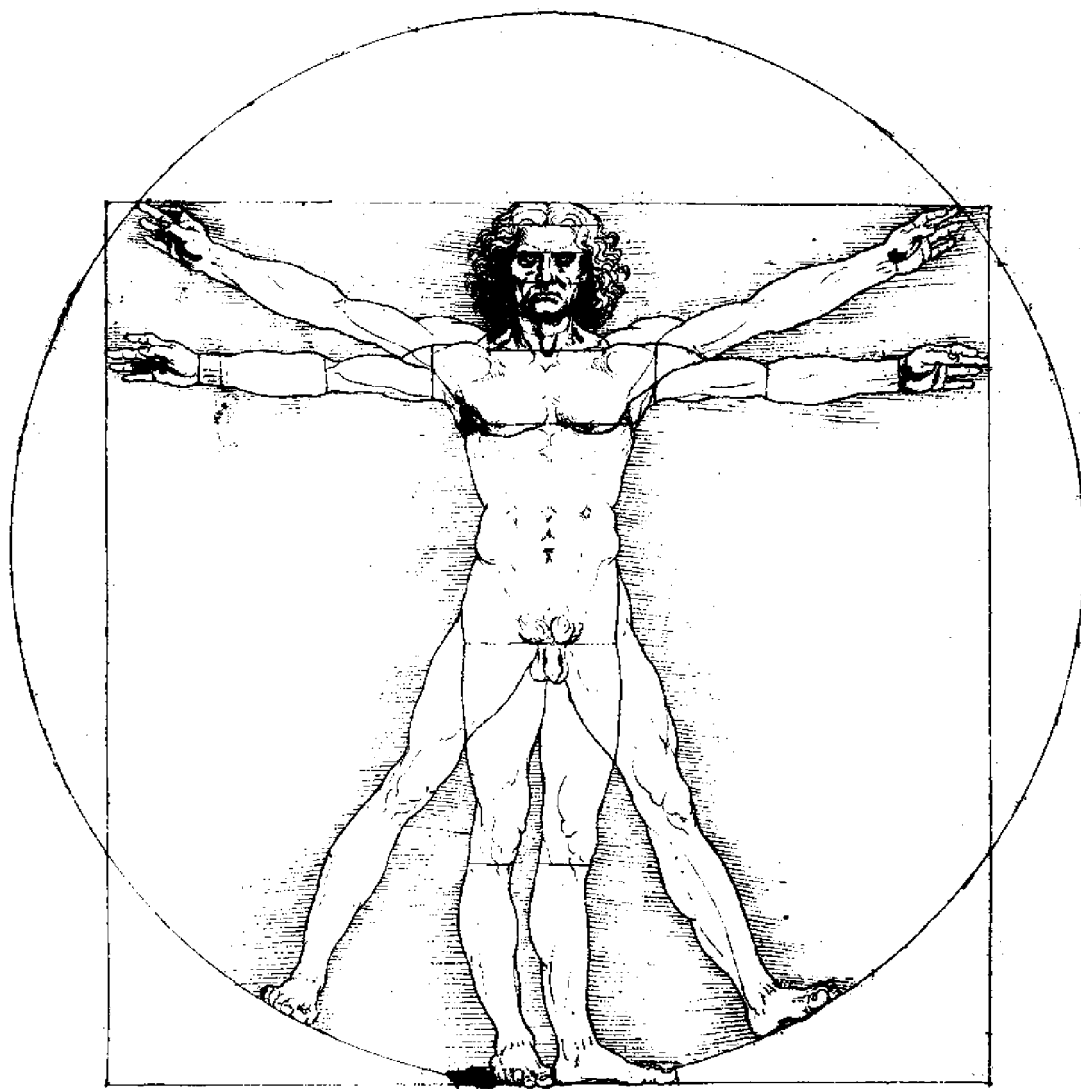
ISHIN

医心

隔月刊・無料配布

2025.1

No.103



北陸の大学病院

医療者の心を一つに
患者さんのために働く

金沢医科大学病院 病院長

川原 範夫

地域医療で活躍する人材の育成と
精神医学の重要疾患に対する総合的な研究を推進

富山大学 学術研究部医学系 神経精神医学講座 教授

高橋 努

CROSS+ISHIN

DXで見えてきた地域社会の近未来

金沢大学大学院 情報医学開発講座 特任教授

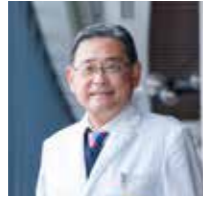
株式会社北國銀行 取締役頭取

三谷産業株式会社 代表取締役社長

金子 周一 × 杖村 修司 × 三谷 忠照

Contents

04



医療者の心を一つに
患者さんのために働く

金沢医科大学病院 病院長
川原 範夫

14



CROSS+ISHIN
DXで見えてきた地域社会の近未来

金沢大学大学院 情報医学開発講座 特任教授 **金子 周一**
株式会社北國銀行 取締役頭取 **杖村 修司**
三谷産業株式会社 代表取締役社長 **三谷 忠照**

23



ファイネスの
お聞かせください、ドクター！
DOCTOR'S VOICE

かとうこどもクリニックアレルギークリニック 副院長
加藤 泰輔

26



地域医療で活躍する人材の育成と
精神医学の重要疾患に対する総合的な研究を推進

富山大学 学術研究部医学系 神経精神医学講座 教授
高橋 努

STAFF

Editor 坂口俊克
Writer 上乗繁能／若井 憲
長坂 紅翠香
Photographer 藤森祐治／中山 健
Designer 吉田真人／西村恭子
発行/NPO法人 学産プロジェクト
〒920-0213
石川県金沢市大河南端町東55番3号
TEL 076-203-6613
e-mail: info@project-ishin.net

「建物の主治医としての自覚」 —これが、みづほのこだわりです。

にし内科・呼吸器クリニック様



外観



待合室



診察室



処置室



レントゲン室

独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に
医療経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での
提案営業スタイルを確立し、
病院や福祉施設の開業を支援しています。
これまで培った豊富なノウハウを基に診療圏調査、
土地探し、施設提案、事業運営までを
専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。
多くのドクターが抱かれている開業についての
不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと
進んでいただけるお手伝いのできるかと考えております。

医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和7年2月15日(土)・16日(日)
10:00~17:00

会場 ● みづほ工業(株)本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。
本造建築の新しい選択肢、「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な
大空間を、「木」と「鉄」のハイブリッド複合架「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000㎡まで
対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の
形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

- 建築コストの削減
- 建築工期の短縮
- 高い耐震性と耐久性
- 建物の軽量化
- 設計自由度の高さ
- 大空間の木造建築

新しい建設サービス業の展開
mizuho みづほ工業株式会社

本社/〒921-8064 金沢市八日市丁1162番地 TEL: 076-240-7001(代) ホームページ/ <https://www.mizuho-co.com>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



パナソニック耐震工法 テクノストラクチャー

● 医療施設

● クリニック

● ドクター

● 薬剤師

● 看護師

地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。

私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。

● 栄養士

● 介護士

● ソーシャルワーカー

● ケアマネジャー

● 民生委員

● 地域の方々

● 在宅高齢者施設

● 民間支援相談室



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

icc 株式会社
石川コンピュータセンター

医療システム本部 / 〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地
TEL (076) 268-8315(代) FAX (076) 268-7145
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■ 本社 / 〒920-0398 金沢市無量寺町八6番地1
TEL (076) 268-8311(大代表)
<https://www.icc.co.jp/>

■ 支社 / 東京・名古屋
■ 支店 / 大阪
■ 営業所 / 富山・福井

医療者の心を一つに 患者さんのために働く

2023年4月に金沢医科大学病院のトップに就任した川原範夫病院長は、能登半島地震や能登豪雨など未曾有の災害を経験し、「病院間の結束がより高まった」と強調する。特定機能病院として高度な医療や質の高いチーム医療を推進し、職員の一体感とコミュニケーションを軸に患者中心の病院運営を目指す。川原病院長に、今後の方針などについて聞いた。

県一体で能登を支える

—能登半島地震から1年余りが経過しました。豪雨災害も重なり、能登地域は医療の危機が叫ばれています。現状についてどのような認識をおもちですか？

(復興は) まだまだ道半ばだと思えます。また、いまだ避難生活を余儀なくされている方々や、仮設住宅、損壊した家屋で暮らす人にとって生活は大変だと思います。避難所や仮設住宅は狭く、それまでコミュニティの繋がりが強い地域で暮らしていた人たちにとっては、慣れない土地では引きこもることも多いのではないのでしょうか。引きこもりがちなと、特に高齢者は認知機能や身体機能にも悪影響が出てしまいます。そのため、避難生活の中でも病気になるないようにするには、リハビリが大切です。当院は珠洲地区にボランティアとしてリハビリ職員を派遣しており、同様に不足している地域には看護師も派遣しています。また、能登地域の関連病院や金沢医科大学氷見市民病院の医師、看護師は、静脈血栓の予防などのスクリーニングのため、仮設住宅などを訪問しています。感染対策チームも含めて、みんなが一緒になっ

てできることをしようと懸命に取り組んでくれています。大学の教職員も一体となり、高島茂樹理事長を中心に法人全体で行動していただいたのを感じます。

—医療支援という面では、どのようなことに取り組んでこられたのでしょうか？

2024年1月1日の発災直後に「災害対策本部」を立ち上げ、2日から多数の傷病者を受け入れるためトリアージを開始しました。当初、優先したのは透析患者さんの受け入れです。能登北部の病院はどこも被災して病院機能が破綻しており、断水や停電などの影響で透析もできませんでした。透析が必要な方を含む患者さんや、能登の病院の入院患者さんが10人、20人と次々に当院に搬送されましたが、まとめて受け入れられました。毎年災害訓練を実施し、地震が起きた場合どう動くかをシミュレーションしていたことが役に立ったと思います。最初の1週間でケガや骨折、胸部・腹部外傷などの患者さん182人を受け入れ、1月の半ばには、旧・新型コロナ病棟38床を再稼働し、避難所で新型コロナや肺炎などにかかった患者さんを新たに受け入れました。金沢医科大学病院の心意気を示



せたのではないかと思います。3月末時点で、震災関連で584人の入院患者さんを受け入れたのは県内でも圧倒的に多いと思います。県や県医師会、各病院などが集まって後方支援会議をほぼ毎日のように行い、受け入れ先について知恵を出し合いました。ともに頑張った人たちは、私はある意味「戦友」だと思っています。県民のために良い医療を展開していくにはどうしたらよいか。今後もコミュニケーションを取り合って、引き続き支援していきたいと考えております。

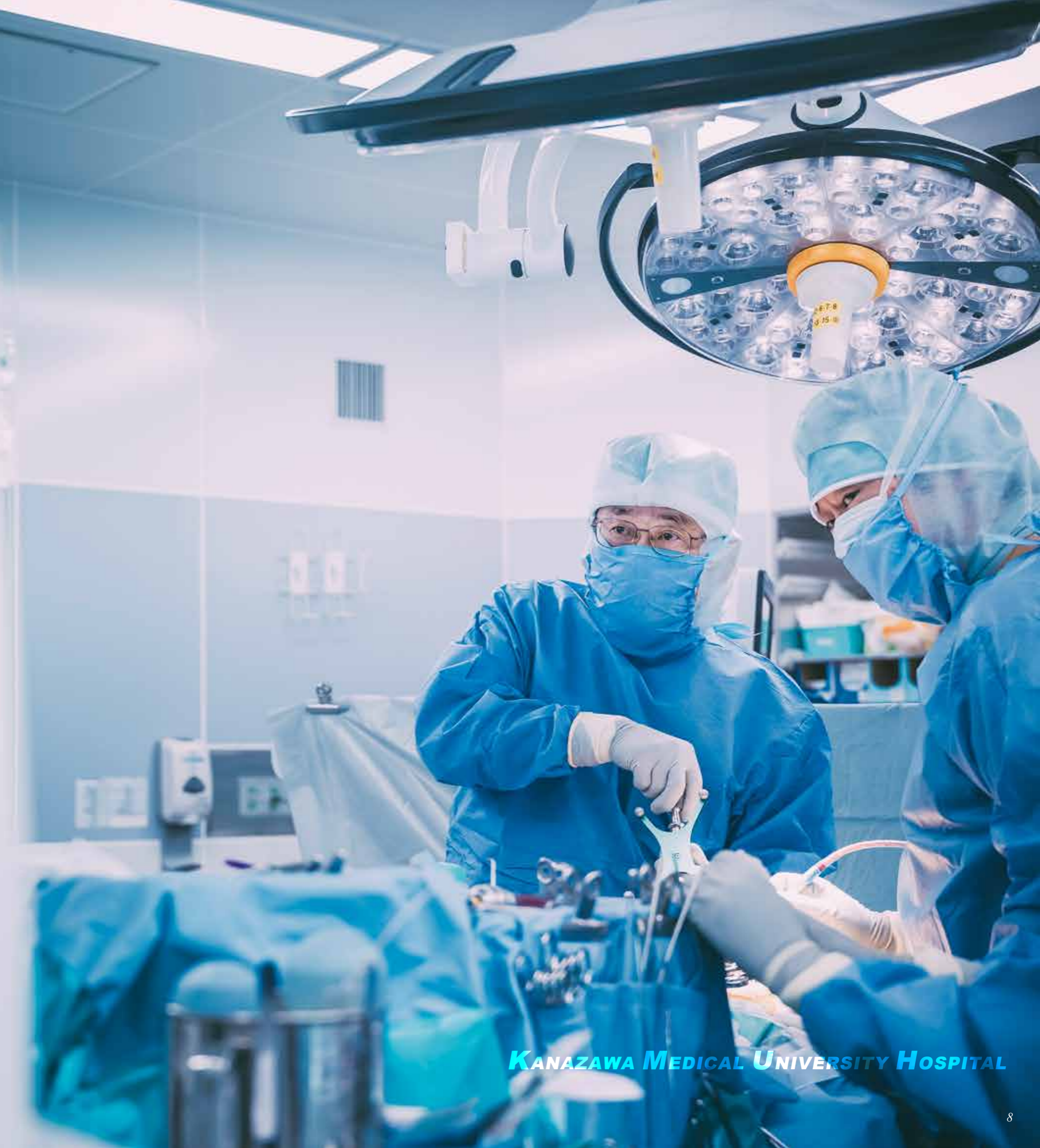
—能登地区は人口減少や高齢化が進み、震災後能登を離れる人も多し中、医療機関の統廃合も取り沙汰されています。今後どのように進んでいくとお考えですか？

震災後の人口動態がどうなるかわからない中で、まだはっきり形にはなっていない。現在、県により「奥能登公立4病院機能強化検討会」が設置され、私も委員を務めています。検討会では、病院の復旧状況を確認するとともに、病院機能の集約化を含め、今後の奥能登の医療提供体制をどのようにしていくかについても検討が始まっています。いまだ、病院機能の集約化など方向性が定まってい

ませんが、どのような医療提供体制になるうとも、金沢医科大学病院として全面的にバックアップしていきます。専門的な診療や救急体制など、医師や看護師などスタッフの問題も含めて協力していく所存です。

—病院長に就任されて、どんなことから優先的に取り組んでいったのでしょうか？

職員が働きやすい環境をいかに整えるかに、まずは心血を注ぎました。働きやすくするには色々な要素がありますが、一つはDX化による業務の効率化です。2年前に電子カルテシステムを更新したのですが、まだ完全に使いこなせていない機能などもあるのでそれをしっかり進めて効率化に繋げていきたいと考えております。例として、患者さんを紹介していただいた医療機関の先生への返書率や、患者さんの退院サマリー整理率は本来、一定の期間内に100%実施が求められています。日々の業務に追われ、作成が遅れる、忘れてしまうことがあります。その対策として、どの医師が、どのような書類作成を行っていないかがフィードバックされるようなシステムを構築することが必要であると考えます。また、タ



スクシフト、タスクシェアに繋がる職種間の業務分担についても検討したいと思っています。

—業務の効率化や処遇改善は進んでいるのでしょうか？

実は、院内薬剤師が不足しています。当院は50数人体制で稼働していますが、すべての患者さんに対して薬剤の治療効果を高めることを目的とした服薬指導まではなかなか手が回らない現状があります。この対策として、薬剤師の免許がなくてもできる調剤補助などを行うスタッフを数名採用し、タスクシェアしながら

効率よく業務を行えるよう改善を図りました。それによって薬剤師は、服薬指導など薬剤師にしかできない仕事に集中できます。また、当院においては、例えば入退院の申し送りをする際にも、次の引き受け先の開業医さんや施設の方々、リハビリ担当者など、多職種がコミュニケーションを取りながら業務を進めています。職場環境改善の面でも、看護師と多職種の人たちがきめ細かく連携することで働きやすい環境の構築に繋がります。職員が働きやすくなれば患者さんに対して「良い医療」が提供できます。それによって病院の収益も上がり、職員の処遇改善も実現できると考えています。



Profile

川原 範夫 (かわはらのりお)

金沢医科大学病院 病院長

- 1983年 金沢大学医学部医学科卒業
- 1988年 金沢大学大学院医学研究科修了
- 1989年 金沢大学整形外科 助手
- 1990年 米国ミネソタ州立大学整形外科留学
- 2003年 金沢大学 助教授
- 2010年 金沢医科大学整形外科 特任教授
- 2016年 金沢医科大学整形外科 教授
- 2017年 金沢医科大学 医学部長、
金沢医科大学病院 副院長
- 2021年 金沢医科大学病院 副院長(再任)
- 2023年 金沢医科大学病院 病院長

「特定機能病院として、高度な医療にも取り組まれています。病院長の専門領域を含めてどんな分野に力を注いでいきたいとお考えですか？」

私は脊椎外科の専門ですが、金沢大学の富田勝郎名誉教授とともに背骨のがんを丸ごと切除する腫瘍脊椎骨全摘術の開発・発展に取り組んできた経験があります。高度先進医療を経て現在は保険に収載されています。金沢医科大学病院では各診療科で先進医療の開発・発展を推進しています。特に再生医療センターでは、細胞・組織調製施設及び品質検査ラボが稼働しており、実用的な治療の開発を目指した取り組みを推進して、細胞治療の基礎的研究、橋渡し研究から臨床研究を実践しています。また、ゲノム医療センターでは、希少遺伝性難病や家族性腫瘍症候群に対する遺伝学的検査を行っており、院内検査として独自に開発したゲノム解析システムを駆使し、2021年11月より遺伝学的検査の受託事業を開始しました。既に東京大学、京都大学、九州大学をはじめ、全国40施設以上の病院と契約を結び、様々な遺伝学的検査に対応しています。

倫理に徹した医療人を育てる

「病院長は、脊椎腫瘍の全摘手術で数多くの症例実績を挙げておられます。紹介患者さんも多いと伺っておりますが、理由はどんなところにあるとお考えですか？」

手前味噌で恐縮ですが、昨年度まで他院からの紹介患者数は、院内において10年間連続トップで、その総数は1814件でした。さすがに今は整形外科の兼歩教授が股関節の新しい術式に取り組みしており、その座を譲りました。私自身、手術が終わって患者さんが退院されても、転院先・退院後の通院先の地域の先生方にも、その後の経過について教えてくださるとお伝えしています。自宅に戻られても、地域の先生方と一緒にやってその患者さんを支えていく。そのような体制を作ることが地域の先生方との連携を強くさせますし、結果的に患者さんの紹介にも繋がるのではないかと感じます。また、当院は他の大学や医療機関の先生方と一緒に高度な手術を行うこともあります。それもあつて多くの医療関係者が全国から手術を見学に来られています。当院としては、それぞれの診療科でトピックスを発信していくってほしいと考えており

ます。例えば当院では、患者さん向けに市民公開講座を開いて積極的に治療法を紹介しています。また、睡眠時無呼吸症候群の治療法として、ペースメーカーを埋め込む手術を開始したりと、新しいトピックスが出てきています。そうした情報を当院だけではなく関連病院や地域の開業医さん、診療医さんたちにも広げたいと思っています。

「病院長として、地域との関係を今後どのように深めていこうとお考えですか？」

震災前から年に何度も、地域の各病院の先生方、診療所の先生方と様々な情報交換や話し合いを定期的に行っています。新しい治療法や金沢医科大学病院の立ち位置、それぞれの病院や診療所が抱える問題、福祉施設や訪問リハビリテーションの立ち位置などいろいろあります。なかには辛口の意見もあつて私自身はそれがとても参考になっています。大病院は特定機能病院として先進医療や高度な医療を開発、実践していくことが使命です。しかしそれが全てではありません。私はむしろ、もつと患者さんに寄り添った医療を展開していくべきではないかと考えています。当院の理念には「患

者さん中心の安全で質の高い医療を提供します」とあります。患者さん・ご家族に寄り添いながら、高度先進医療、質の高いチーム医療を推進していく。そのうえで地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進する。それが本来の使命であり、果たすべき役割であることを忘れてはいけないと思っています。

「病院長として、職員のみなさんに期待するのはどんなことですか？」

一番大事なことは、この病院で働くすべての職員が心を一つにして、患者さんに寄り添い、一生懸命に尽くすことだと私は思います。良い治療をしようと思えば、患者さんに優しくできるし、診療や病棟回診もしつかりすることで見落としも少なくなるはずですよ。働くみなさんの意識を患者さん中心にもっていくこと。それが本学全体の理念である「倫理に徹した人間性豊かな医療人の育成」に繋がると思います。若い人たちには、患者さんのために一生懸命尽くすこと、もう一つは臨床現場での疑問をしっかりと解決できるような研究をして、社会に発信していくってほしい。心からそう願っています。

健やかな未来のために。

真のソリューションを実現する
価値あるサポート。

丸文通商は、医用機器と科学機器の供給を通じて、人々の健康維持と新しい産業の創造に貢献しています。取り扱いメーカーとの緊密な連携により最新の製品情報をスピーディに提供するとともに、自社のカスタマー・エンジニアによるメンテナンス体制を構築。真のソリューションを実現する価値あるサポートを展開しています。



医用機器部門

各種医用機器・システムの提供はもちろん、マーケティングに基づくアドバイスを行うなど、メディカルコンサルタントとして病院経営全般をサポートしています。



科学機器・産業機器部門

絶えまなく技術革新を続ける科学機器の最新情報を幅広く収集しながら、ユーザーニーズに応じた、最適なマシン・システムをコーディネートしています。



技術・サービス部門

メンテナンスや修理などのアフターケアによって、ユーザーをサポートするとともに、オリジナル製品や各種システムの開発にも取り組んでいます。

明日の健康と新産業創造のパートナー

丸文通商株式会社 <https://www.marubun-tsusyo.co.jp/>

金沢支店

〒920-0385 石川県金沢市松島一丁目40番地
TEL 076-269-1880 / FAX 076-269-2522

富山支店

〒939-8221 富山県富山市八日町247番地41
TEL 076-429-7190 / FAX 076-429-3277

福井支店

〒918-8236 福井県福井市和田中二丁目907番地
TEL 0776-23-8070 / FAX 0776-23-9500

mt-a4-2412

医療を支える。 人と地域の未来のために。

私たちが幸せな人生を歩むために、医療は、必要不可欠です。

しかし、世の中の変化とともに、医療は今、多くの課題を抱えています。

医療人材の採用から育成、キャリア支援、仕組み作りまで

私たち MCS は、HR（ヒューマンリソース）の分野で、医療の課題解決に向き合います。

医療関係者、生活者、地域社会、その未来のために。



「地域」と「医療」の架け橋として ヒューマンリソースの問題をトータルで支援する

スギ薬局グループ

mcs
Medical Career Support

詳しくは WEB へ





「電子マネーと現金が共存する」

金子 今から7年ほど前、中国の深圳で国際学会があったときにご飯を食べに行こうと近くのお店に入ったら、現金は使えない、クレジットカードもNGで、メニューを頼むのも会計も「QRコード」しか使えませんでした。今なら日本でもその手の店は珍しくありませんが、7年前の中国でそうなっていることに驚きました。たしかに人手は少なくてすむし、注文も会計も楽です。システムは全部どこかでつながって処理されていると後から聞いて、中国はすごい進んでいると感じました。私自身は新しいことが好きなのでスマホで電子決済などが普通にできるのは歓迎ですが、日本全体を見渡せばそんな人ばかりではありません。若い人はどんどんスマホやパソコンを使いこなせても、うまく使えない人や高齢者はどうなるのだろうかと考えてしまいます。それと能登半島地震のときに感じたのですが、やはり現金も必要ではないかと。キャッシュレスが進んで、人手不足の解消や作業の効率化、生産性を上げるためにデジタル技術が必要なのはわかりますが、私たちの生活が今後どういうふうに変わっていくのか非常に気になります。

国や経済界、産業界などあらゆる分野でDX化が進んでいる。

医療分野ではマイナンバーカードと健康保険証の一体化をはじめ、地域はもちろん全国どこにいても同じ医療情報が閲覧できて、遠隔診療も可能になっている。

金融や産業界では、スマートフォンやカードによる決済、地域通貨による商品決済なども広がってきた。

DX化の進展で、私たちの生活はこの先どう変わるのか？

医療、金融、産業界から3人の有力者に語り合っていた。

DXで見えてきた 地域社会の近未来

三谷 現金が必要な場面はまだあるように思います。例えば慶弔とか、神社の賽銭とか。最近は賽銭を電子決済する神社もあるようですが、現金が持っている文化的な意味合いのようなものは今後も尊重されていくのではないのでしょうか。そういう場面を残しつつ、一方で最大限効率化してほしいというのが、一般的な感覚のような気がします。私は、現金を全て電子マネーにしていくのはある上限までで、どちらかというと現金と電子マネーが共存していくのではないかと考えています。デジタルでどんどん効率化を進めるところと、互換性をどういうふうに維持していくかは今後も議論の対象になると思います。

杖村 現金は今後も無くならないですし、無くす必要もないと感じています。ただ流通量は限りなく減ってくると思います。一方で、デジタルに対する恐怖心とか、不安を感じている人は少なくないと思います。デジタル化による犯罪なども増えている中で私たちが取り組むべきは、スマホを使うのが苦手な人に対して、使いこなしたい意向があればヒューマンタッチにリアルで対話をしながらお伝えすることです。各支店で「デジタル教室」を開いていて、この2年ですでに1万回を

超えています。われわれとしては10万回くらい続ける気持ちで、電話やHPから予約いただければきちんと対応するようになっています。

【システム同士の連携が進む】

金子 このひと月ほどの間にヨーロッパとアメリカに行ってきたのですが、そこで感じたのは、ヨーロッパはあまりチップがないので電子マネーでもいいのですが、アメリカはまだチップがあるので現金を持っていかないと何かの時に困ります。そのアメリカもお店の支払いには15%、18%、20%とチップボタンがついていて、これが多くなると「この先、(現金決済も)どうなるかわからない」と感じました。

杖村 日本国内はキャッシュレスと現金が両立すると思いますが、一方で、日本は現金が多すぎて国際的な資金洗浄に使われるなど犯罪の温床になっている面も指摘されています。アンチマネーロンダリング、すなわちテロなどの凶悪犯罪への資金供与の防止対策として、日本人自身が意識をして、特に高額な金額のやりとりについてはだんだん少なくしていくかないといけないと感じます。同時に、デ

ジタルを推進するにはやはりセキュリティが重要になってきます。私たちとしても、お客さまにデジタル犯罪から身を守る方法などを対面のセミナーを通じて、もっと広めていく必要があると思っています。

三谷 銀行でまとまった現金を下ろす時には、窓口で「何に使われるのですか?」と聞かれます(笑)。たしかに多額の現金は振り込み詐欺など犯罪に狙われやすいので、日常的な決済は電子マネーに変わっていく方がいいと思います。電子マ

杖村 ステープルコインの法整備を待つて何かやろうとしたら、たまたま私たちが最初になりました。三谷産業さんも今、日本の金融機関向けが一番高いシェアをもっている製品を開発されています。

三谷 私どもが開発した「POWER EGG」という製品を、2011年に北國銀行さんに最初に導入していただき、金融機関でのモデルケースになったと思っています。POWER EGGは、全国の金融機関の業務改革やコスト削減、人手不足解消などを実現する製品で、地方銀行においては62行中24行で導入され、38・7%の高



株式会社北國銀行 取締役頭取 **杖村 修司**

いシェアをいただいております(2024年11月末時点)。最初は自社向けだったものを民間企業向けに製品化し、石川県や北陸の企業にも数多く導入していただきました。北陸においては、他の地域よりも企業のDX化を進める下地になっていると言えると思います。

三谷 銀行でまとまった現金を下ろす時には、窓口で「何に使われるのですか?」と聞かれます(笑)。たしかに多額の現金は振り込み詐欺など犯罪に狙われやすいので、日常的な決済は電子マネーに変わっていく方がいいと思います。電子マ



三谷 銀行でまとまった現金を下ろす時には、窓口で「何に使われるのですか?」と聞かれます(笑)。たしかに多額の現金は振り込み詐欺など犯罪に狙われやすいので、日常的な決済は電子マネーに変わっていく方がいいと思います。電子マ

【預金と連動した日本初の地域通貨】
 ネーは単にデジタルで決済できるだけではなくて、後ろでいろんなシステムとつながっています。販売管理システム、在庫管理や生産管理システムなど、システム同士がどんどんつながって一つのデジタルデータとしてトランザクション(情報処理)されていく。それがいろんな形で効率化され労働力不足にうまく対応できるなど、いろんな変化が産業界や小売の世界に起きていると感じます。

【医療DXのカギを握る生成AI】
 ところで、国は2030年度をめどに医療情報のDX化を進めています。その核となるのが電子カルテの標準化で

す。それを「HL7 FHIR」という形式に則って標準化を進めています。しかし、2030年に用意されるのはカルテのなかの3文書6情報に限られ、医師や看護師が最も重視している経過録の標準化は入っていません。最も重要なところの標準化が難しいためにその部分が抜けている状況にある。そこで、三谷さんに「生成AIでできたらいいよね」という話をしたら、もうプロトタイプを作って提案されました。

三谷 ご提案したプロトタイプは、まだ完全ではないんです。私たちの開発スタイルは、すぐに製品化するのではなく、製品に近づけていくプロセスをお客様と一緒にたどる方向に変化してきています。お客様に「私たちはこういうプロトタイプが作れます」と提案をしながら、お客様が「それだったらこういう使い方もできるね」とインスピレーションを広げる。そのような方法に重点を置いています。また、システムを今の業務に合わせるのではなく、現場の業務をシステムに合わせる開発スタイルにシフトしています。

金子 北國銀行さんは「トツイッター」という地域通貨を発行しておられます。能登半島地震の影響もあってどうなるかと思いましたが、珠洲地区では使われたと聞きました。銀行預金に接続した地域通貨アプリは日本初かどうかがついていません。UI (User Interface) やUX (User Experience) が良くて、2024年のグッドデザイン賞も取られています。非常に使い勝手が良いですが、マイナンバーカードとの接続は高齢者には難しくありませんか?

杖村 ご指摘の通りです。2024年の4月から始まったのですが、私たちとすればUI/UXは現場で検証してみないとわからないところもありますので、ご指摘いただいたところは修正して、2025年春ごろには対応できると考えています。珠洲や輪島など能登の皆さんは地震で大変な思いをされたのですが、実は震災前まではVISAデビットカードを使う人の割合は珠洲地区が日本で一番多かったです。それはスマホやカード決済に苦手意識のある人でも、きちんとお伝えすれば皆さんに利用いただけることを示していて、実際にトツイッターを使えば、細かいお金を出すよりいいんじゃないかが実証されていると思います。ト

金子 医療DXは、2024年度中にHL7 FHIR形式のアルファ版が公開され、1年かけて作りこんでいく計画です。この計画に抜け落ちている部分を三谷さんが作り上げられるようになったら、売れるかもしれません。科学の進歩は案外そんなところがあって、新しいものがポンとビジネスに結びつくことがあるものです。

杖村 今、お話をされているところはとても重要だと思っています。デジタルとかソフトウェアの世界は今、大きく変わりつつあって、大手ベンダーでさえ危うい時代になってきています。会社規模が大きくなりすぎて、おっしゃったようなデジタルの開発や運用まで手が回らなくなって



三谷産業株式会社 代表取締役社長 **三谷 忠照**

いる。開発や運用の仕方自体が根本的に変わる時代がきている感じがします。

【医療の情報共有と行政の効率化】

金子 医療・介護・福祉の現場では、否応なく情報を共有しないといけない時代になってきています。一方で、国の予算の3分の1を社会保障費が占めている現状から、嫌でも行政の効率化を図らないといけない。つまり国は、医療情報がつながって患者さんや家族が質の高い医療を受けられることと、行政が効率化しないと日本がもうもたなくなる状態を同時に解決したい狙いがあります。ただ、国が今進めようとしている医療DXの中で、必ずしも質の高い医療には届かないと私は思っています。もしかすると、医療DXの本質は質の高い医療を目指すというよりも、行政の効率化にあるのではないかと考えています。

三谷 医療の質が上がるとは、どういうロジックになるのでしょうか？

金子 今の医療DXで整備する3文書6情報には、診療所が患者さんを紹介するときの紹介状、病院を退院して、また診療所でみてもらうときのサマリーなどが

も情報を取得して、うまく利用できる体制を整えるのは重要だと思います。

三谷 当社も他分野の事業をいろいろやっていく中で今、セミオープンインベシジョンを標榜しています。つまり、異分野同士がつながることで、お互い知恵を重ね合わせたりしながらアップデートしていく。今おっしゃったインフラのアップデートもそうですし、科学の発展の中でも異質な変化を起こせる人間にどうやったらなるか。異分野や異なる考え、技術、アイデアなどが混じり合い

あります。基本的な情報がみられることや、はじめて診るとき、紹介のときには確かに便利です。しかし、医療の質を上げていくかといえは、そうではありません。今はひとりの患者さんを病院、診療所、薬局、介護施設でリアルタイムに同時にみえています。例えば、ある病院で患者さんや家族がこの治療を受けた方がいけれど「受けたくない」と言った場合。家族や本人の思い、それを受けた医師の判断といった記録はその日の経過録に書きます。紹介状に書けば良いと思われるかもしれませんが、その都度お金も発生

するし、書く形式も違います。しかし、医療の質を上げようとする場合、同時に患者さんを見て他の医師や看護師、薬剤師、介護士はその情報を一番知りた

いわけです。その記録は今の医療DXの計画には載りません。CTとか細かい情報も載りません。それを載せようとするデータ量が半端じゃなくなるので、とんでもないクラウドのサーバーが必要になります。

杖村 ただ、システム的には可能なの

重なり合うような場を作って、次の時代にチャレンジする準備をしているところ

【新しい価値をデザインする】

金子 常勤役員の方全員がG検定というAI、ディープラーニングの試験に合格しているのもその象徴的な例ですね？

三谷 そうです。G検定のGはジェネラルのGですが、一般教養としてのAIに対する理解を役員から率先して深めてい



金沢大学大学院 情報医学開発講座 特任教授 **金子 周一**

ると思われるかもしれませんが、今のGoogleフォトなんかは個人の写真データを無料で保存できているわけですから、金子先生が指摘いただいたような問題は限りなくクリアできるような気がしますけどね。

三谷 そう思います。プラットフォームとして機能させるために、何が必要かも少しわかればうまく溶け込める可能性はあると思います。人とシステムの間には存在しないといけないものを、今だと生成AIの力をうまく使えばシステムと人とのコミュニケーションや、人と人とのコミュニケーションも「質」が高まる余地が大いにあると思います。

【「利他社会」へのトライアル】

金子 とはいえ、デジタルで超えられない壁があって、例えば石川県能美市は高齢者でスマホを持っていない人たちにどうやってサービスを提供していくかを実践しています。能美市は内閣府のデジタル田園都市構想事業のモデルになっている、その一環として市内80数か所にある公民館を拠点に物流機能をもたせています。家にインターネット環境がない人やスマホを持っていない高齢者でも、

ます。現在、三谷産業社員の75%以上がG検定に合格していて、それによってポキヤブラーイが変まりました。「AIが魔法のようになんとかしてくれ」と誰もが言わなくなりましたし、AIそのものの性質とか、何ができて、何ができないかをわかった上で使いこなせるようになりました。今ある技術をどう使いこなして、新しい価値を作っていくか。価値作りのデザインが次の目標になっています。

杖村 医学の世界は常に進歩していますし、先生方はそのための勉強や研究を怠らないですね。ビジネスの世界でも、これからはリカレント教育が重要だと思います。常に役員も社員も学び続けなければ、世の中の変化に対応できませんし、会社も成長し続けることができない時代です。三谷さんがおっしゃった社員の75%以上の合格者はすごいですよ。

金子 北國フィナンシャルホールディングスのリカレント教育もなかなかだと思います。先ほど医学の進歩の話がありましたけど、お医者さんは科学が好きだから多いので、先生方もデジタルやIT、AIのリテラシーを是非あげていただき、異業種との意見交換やコラボレーションにつなげてほしいと願っています。

公民館に来てもらって薬や生活用品をもらえるようにする。最終的にはドローン配送や地域通貨、ライドシェアなどになげようとしています。キャッシュレスとか高齢者の医療、介護の見守り、さらに物流や車の配送など全部がつながる仕組みで、「スマートインクルーシブシティ」構想として国の助成を受けて進めています。社会保障だけではなく、道路や水道などの社会インフラもその仕組みの中に関わってくると、社会の仕組みもいぶん変わると思います。社会が変わること

で情報を持ち寄って、それを自分のためだけにやなくて、みんなが得をする「利他社会」につながります。いわばそのトリアルが能美市の取り組みといえます。その時に情報のセキュリティや価値が大切になると思っています。

杖村 会社経営とか経済社会を変えていくためにも、非常に重要なポイントだと思います。おっしゃるような情報はものすごく価値があって、それをうまく取得し、加工したり分析することで戦略が変わってきます。戦略が変わればマーケティングや営業も変わりますし、会社の運営自体が大きく変わっていきます。間違はなくそういう時代に来ていますので、そのノウハウをきちんと使いこなすために

購入から15年以内で このような 医療機器 はございませんか?

日本で使用されなくなった内視鏡・エコー・CR読取り装置・眼科機器・CT/MRI装置は、
多くの発展途上国で必要とされています。



弊社が買取りいたします。
各社リース更新・満了・返却機器もご相談ください。

らくらく買取



QRコードを
読み込んでください

石川県伝説の乳酸菌

産・学・官連携で
発見した伝説の乳酸菌
「ANP7-1株」



石川県の伝統醸造食品から取り出した300種類以上の乳酸菌の中で、選り
抜かれた「ANP7-1株」。文部科学省の支援を受けて石川県と企業、大学が
連携し、3年間にわたって研究・分析を行った結果、解明されました。

ANP71

150g・要冷蔵
日本ヴィーガン協会認証取得



1,500億個の 植物性乳酸菌が造り出した 醗酵ドリンク

「ANP7-1株」が「ANP71」を造り出します。
製品1本あたり植物性乳酸菌は1,500億個以上。

天然アミノ酸 たっぷり

必須アミノ酸9種類をはじめとする20種類の天然アミノ酸や
ブドウ糖などの栄養素も豊富に含み、毎日の健康維持に
お役立ていただけます。

国産契約栽培米

100

パー
セント

アレルギー フリー

※食品表示法で表示が義務付けられた8品目アレルギー(えび、かに、く
るみ、小麦、そば、乳、卵、落花生(ピーナッツ))と、表示が推奨されてい
る20品目アレルギー(アーモンド、あわび、いか、いくら、オレンジ、カ
シューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナ
ナ、豚肉、マカダミアナッツ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン)の合計28
品目アレルギーを使用していないことを意味します。

添加物 一切不使用

原料は米と麹だけ。甘味料、酸味料、香料などは
一切使用していません。

ノンアルコール



米と麴の乳酸菌ドリンク

金沢
福光屋
米と麹の400年へ

富山県立山町大石原

かとうこどもクリニック アレルギークリニック

小児科・アレルギー科



【略歴】

愛知医科大学医学部 卒業
蒲郡市民病院 小児科
あいち小児保健医療総合センター アレルギー科
富山市民病院 小児科
富山大学附属病院 小児科

日本小児科学会 小児科専門医
日本アレルギー学会 アレルギー専門医
日本小児アレルギー学会

加藤 泰輔 副院長

乳幼児から高齢者まで、地域の ファミリークリニックとして機能



高度な専門性と丁寧な説明で
治療効果を上げる

1992年に開院した「かとうこどもクリニック」が、2024年9月に「かとうこどもアレルギーアレルギークリニック」へと改称した。

改称のきっかけとなったのは、愛知県の大学を卒業し基幹病院で経験を積んだ後、富山県に帰郷した副院長の着任がある。

「小児科医であり父でもある院長の姿を見て育ち、また純粋に子どもを診たいという思いから小児科医を志しました。生まれ育った地域へ、医師としての経験とスキルを還元したいという思いがありクリニックを継承することは必然でした」と語るのは、小児科専門医、アレルギー専門医でもある加藤泰輔副院長。

帰郷後、富山大学附属病院に勤務する傍ら「アレルギー専門外来」を立ち上げ担当してきた。クリニックの専属医となったタイミングで改称し、小児全般はもちろんのこと月4回のアレルギー専門外来を担当している。

医師になりたての頃、薬剤性のアレルギーを起こした小児の症例を

健やかな未来に、潤いを。

主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)
- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医業経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部
TEL:076-239-0625
E-mail: solution@jp-finese.com



[本社/金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
[支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店
[営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所

きっかけに興味を持ち、アレルギー専門医資格を取得。
アレルギー疾患医療拠点病院に指定されている愛知県内の小児の基幹病院、および富山大学附属病院において多くの症例を経験し、研鑽を積んできた。クリニックでも経験を活かし、食物アレルギーと様々な病気の発症源ともいわれるアトピー性皮膚炎治療に注力している。食物アレルギー治療では専門医管理のもと経口負荷試験を行い、根治をめざす。

「治療は長期に渡るため親御さんの負担も大きくなります。診察時は親御さんの頑張りにも目を向け、また丁寧に説明すること、経過状況をお伝えすることで治療に前向きになれるよう心掛けています」
アレルギー専門外来は小児だけが診療対象ではない。成人の食物アレルギーを診てもらえる医療機関は少なく、そういった人たちの受け皿になればという思いから全年齢を対象としている。

患者さんの声に傾聴し共感する
気軽に相談できる地域の窓口

クリニックではアレルギー同様、診療対象は小児に限っていない。



「周りに病院が少ない地域で、近隣の方々が年齢を問わずクリニックに訪れてきます。来院された方は必ず診るようにして内科領域であれば診療し、領域外の場合は連携医療機関を紹介を行っています」と語るのは院長の泰三氏。

小児科としてスタートしたが、時代の変化、地域のニーズを捉えファミリークリニックとしての機能も果たしている。生活習慣病、不眠症、禁煙、漢方治療や舌下免疫療法にも対応し、乳幼児から高齢者までの健康診断と予防接種も積極的に行なっている。

院長が長年培った信頼に、副院長が高度な専門性をプラスし、的確な役割分担で診療する。親子の連携が、さらに地域になくはならない存在になっている。



munejyu
 私たちは、
 石川と能登の復興を応援しています。

**みんなの
 チカラで!**

人によりそい、街をつくり、暮らしを守り続けてきた宗重商店グループは
 石川に生きる人々のために、能登の明日と笑顔のために
 これからも石川と能登の復興を応援し続けます。
 さあ!みんなのチカラで一步前へ!

詳しくは
 Webで!



株式会社
宗重商店
 munejyu

本社・石川営業所 / 金沢市軟田西1丁目112番地 Tel.076-266-6000
 滋賀営業所 / 滋賀県長浜市西上坂町267 Tel.0749-63-8844
 リサイクルセンター / 金沢市湊2丁目3 Tel.076-281-6000
 ラクマル倉庫 / 河北郡内灘町字向栗崎5丁目247番地 Tel.076-254-6485

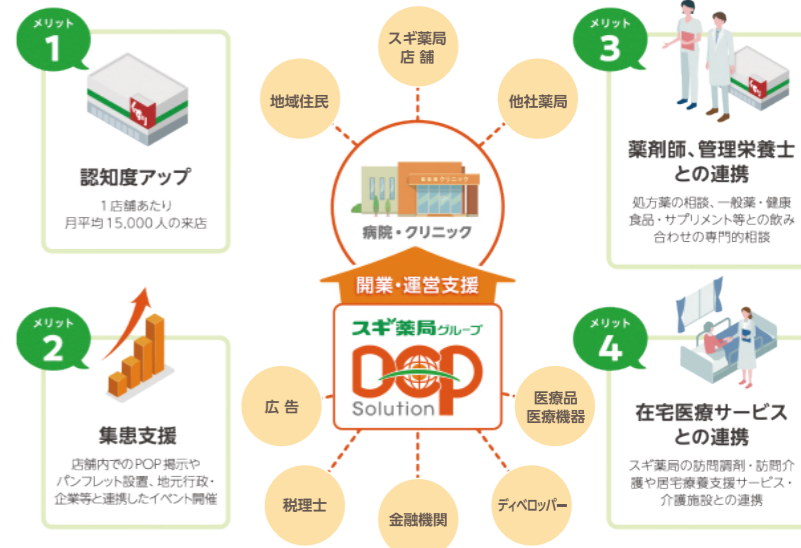
MJビルド株式会社 / 金沢市軟田西1丁目112番地 Tel.076-216-8088
 有限会社北陸機材 / 金沢市近岡町758番地1 Tel.076-237-7999

D C P ソリューションは
 豊富な経験とネットワークを持つ
 先生方のよきパートナーとして
 開業支援サービスを提供しています。

ドラッグストア併設で 理想の開業を!

D C P ソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成
 開業までのスケジュール作成
 開業地の選定、診療圏分析
 事業計画の策定
 融資の打診及び交渉
 設計、内装業者紹介及びアドバイス
 医療機器選定
 税理士、公認会計士の紹介
 広告相談
 従業員募集、採用、教育の補助
 開設手続き
 開業後の経営支援、拡大展開
 継承支援



D C P Solution **スギ薬局グループ**

0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分~18時00分

拠 点

- 関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町二丁目6番1号 堀内ビルディング2階
- 中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地の1
- 関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号 新大阪第5ドイビル13階
- 北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

開業の事例や
 先生方の声が
 ご覧頂けます



<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>

地域医療で活躍する 人材の育成と精神医学の 重要疾患に対する 総合的な研究を推進



早期介入に力を注ぐ 富山県の精神科診療

2024年6月、富山大学神経精神医学講座の教授となった高橋努氏に就任当時の気持ちを問うと「安堵したのが一番大きい」という答えが返ってきた。教授不在期間が長引くことで医局の体制が弱体化してしまうことを危惧していた高橋教授は「先のこと固まって、ほっとしたのが正直な気持ちです」と話す。

「私自身が長らくこちらの医局でキャリアを積んできて、特にここ10年間は医局長と准教授を兼任し医局の運営をはじめ、県内の精神科医療機関とのやりとりや人事的なことにも深く関わってきました。歴史あるこの講座の臨床、研究、そして教育を継続しながら発展させていきたいと考えています」

高橋教授は、臨床面では精神疾患への早期介入、研究面では統合失調症の病態解明のための生物学的研究を専門としている。統合失調症をはじめとする精神症（サイコース）は思春期や青年期により発症し、長期にわたって社会機能の低下をきたす重篤な精神疾患である。早期に治療を開始することで未治療期間が短縮され、治療臨界期（発症から2～5年

Tsutomu Takahashi



間)に適切な治療を継続的に受けることで長期転帰の改善や再発率の低下が期待されることから、早期介入の重要性が注目されている。

「最近では精神疾患の診断がつく前の段階でアプローチ、介入できないかという流れがあります」

1990年代以降、臨床的な特徴から前駆症状が疑われる若者を「精神病発症危険状態(A R M S)」として同定した上で介入するという試みが、世界中で行われるようになった。

「精神的な不調で困って助けを求めている方たちに向け、富山県との連携事業で2006年から始めたのが『こころのリスク相談事業』です。支援を求めて富山県心の健康センターに来所した若者に対して公認心理師が無料で相談に応じ、精神疾患発症のリスクが高いと思われる方には、富山大学附属病院神経精神科の専門外来『こころのリスク外来』で早期診断と必要な治療・支援を行います。A R M Sの専門的な対応ができる場所は日本国内でも数か所しかなく、『富山大学附属病院神経精神科の臨床的な特徴は何か?』と聞かれたら、この早期介入活動だと答えます」

神経精神科では、精神医学における重

要疾患の病態解明や診断・治療の進歩につながる実証的・臨床的および基礎的研究を推進している。その第一のターゲットが統合失調症であり、多角的アプローチによる病態研究や先進的な早期介入研究・活動を実践し、国内および国際共同研究も積極的に行っており、この領域では臨床・研究の拠点として世界的に認知されている。

「A R M Sをはじめとする病初期に対して、多角的に生物学的な研究をして、長期間にわたる縦断的な検討もしていることが大きな特徴で、そういうことができるということは多くはないと思っています」

院内連携が加速し 存在感を増す精神科診療

大病院における神経精神科の大きな役割の一つが「リエゾン外来」。ここではせん妄への対処や緩和ケアなど、他科に入院中の患者さんの精神医学的問題に対応している。

「そのニーズは高く、依頼はほぼ毎日あります。多いのは高齢者のせん妄で、そういう方に対しては安心できる空間を確保することが必要です。例えば、ご家族が付き添われたり普段使っているもの

を置いたり、家族の写真を貼ったりなど環境整備が重要になります。向精神薬を使うこともありますし、カウンセリングなど心理療法的なアプローチをするということもよくあります。他にも認知症の方が入院してきた時の対応や、産婦人科の先生と一緒に統合失調症や抗てんかん薬を飲んで、いる妊婦さんのサポート方法を検討していくなど、多種多様です」

日本では高齢者の4人に1人が認知症、あるいはその予備軍とされるが、今後は認知症の早期発見・早期治療の重要性がますます高まると考えられる。アルツハイマー病の進行抑制を目的とした抗アミロイドβ抗体薬「レカネマブ」が保険適用となり、2024年5月には、脳神経内科、神経精神科および放射線科の3科合同による専門外来「レカネマブ外来」を開設した。

「認知症に関しては『レカネマブ外来』以外に、『ものわすれ外来』があります。こちらは地域の内科の先生などからの紹介を受けて、脳画像や脳の血流を見たり、採血や認知機能を測ったりなどと専門的な検査を行って、診断をつけます。そして治療の方針を決め、その上で地域の先生にお返ししています」

院内連携でもう一つ、この先存在感が解析の研究を活発に行い、精神的に結果を出している世界で最もプロダクティブなラボともいわれている。地域の病院からの医師派遣の要請にできるだけ応えるようにしており、無理をして派遣して、大学の医局員がやや手薄な状況だという。

「臨床、研究、教育をはじめ、求められる役割が多く大変な中で、医局員はそれぞれの立場で真摯に取り組んでくれており、頭が下がる思いです。今後の教室の発展のためには、いかに人材を増やしていくかが重要であり、特に未来を拓く若い力が不可欠と考えています。幸いなことに来年度は5名の新人が入ってきます。研究に興味を持って大学院の博士課程に進学して、医学博士を取得するような若い精神科医が増えてくれるといいなと思っています。また、小さいお子さんがある方や、病気があって長時間の勤務が難しい方でも無理なく働ける、いろいろな方が活躍しやすい、安心して所属できる組織にしていきたいと思っています」

増しそうなものとして「富山大学附属病院ジェンダーセンター」がある。形成再建外科・美容外科、第二外科、産科婦人科、泌尿器科、神経精神科、小児科の6つの診療科の医師、看護師、公認心理師などからなる多職種チームが外科手術を考えている性別不適合の当事者をトータルサポートするもので、神経精神科は主に性別不適合の診断および精神的支援を担っている。

高まるニーズに応えるべく 後進の育成が急務

統合失調症や気分症をはじめとする精神疾患に関して、現在ではエビデンスに基づく治療ガイドラインが整備されており、若手精神科医は「いぶんと効率的に治療が行える時代となった」という。一方で、「診断基準として羅列された症状リストに、○×を付けるだけで精神疾患を診断し、機械的に薬物療法アルゴリズムに基づき投薬するだけでは、精神科診療としてはあまりに薄っぺらで無味乾燥に思えます。精神医学は『人を診る』心と向き合う」学問であり、患者さんの背景や状況も十分に考慮し、また患者さんやご家族と信頼関係を築く努力も忘れな

“これまで”をさらに積み重ね “これから”を創造していく

統合失調症グループと健常者グループの脳の形態を比較すれば統計的な差があつて、その違いがどのような症状と相関しているかなどというところはある程度解明されてきたが、実際に診察する中で、脳のMRIを見て診断がつけられるレベルではまだないという。

「研究的な知見をいかに臨床レベルにつなげていけるか、臨床にフィードバックしていけるか、臨床応用を今後目指していきたいと考えています。そして、十

いようにしたい」と高橋教授は話す。その姿勢が若手の精神科医にも自然に伝わってくれたらいいと考えているそうだ。

現在、富山県内の多くの精神科医療機関や公的機関でこの医局出身の医師が活躍している。「今後も地域医療に貢献できる優秀な精神科医を育てていくことが大きな役割」だという。

「精神科を志す学生や若い研修医というのは一定数いて、特に児童青年期の心の問題を扱いたいという人は少なくありません。一方で、児童青年期を専門で見る精神科医は少なく受診するまでに時間がかかってしまうという実情があります。その専門医を育てて、富山県の児童青年期精神医療を充実させていくことはとても重要です」

研究を行うことは臨床医としての将来にも有益であり、若手医師の大学院進学や海外研究留学も大いに奨励している。

高橋教授自身もオーストラリアのメルボルン大学メルボルン神経精神センターで2年間研究留学生生活を送り、臨床および研究のキャリアを深める良い機会となったと話す。メルボルン大学に研究留学したのはもともと研究分野が近く、共同研究をしていたという縁があったから。ここではARMSを含め、精神疾患の脳の

数年後の教授退任の時に、『高橋に教授を任せて良かった』と周りから評価していただけたならば、それが一番嬉しいことだと思っています」

特に「教授の椅子」を目指すでもなかったと話す高橋教授。長年、その中心的存在として関わってきたものをしっかりと受け継ぎ、それを発展させていくという重責を担いつつも、お話をすると柔軟な表情は、やるべきことや課題がわかっているからこそその自信に満ちているように見えた。



Profile

高橋 努 (たかはし つとむ)

富山大学 学術研究部医学系 神経精神医学講座 教授

- 1996年 富山医科薬科大学医学部医学科卒業
- 1996年 富山医科薬科大学附属病院神経精神科 医員
- 1997年 医療法人社団和敬会谷野呉山病院 精神科医師
- 2001年 厚生連滑川病院 精神科医師
- 2002年 富山医科薬科大学大学院医学研究科博士課程修了 博士(医学)
- 2002年 富山医科薬科大学医学部精神神経医学講座 助手
- 2002年 医療法人白雲会呉羽神経サナトリウム 精神科医師
- 2003年 富山医科薬科大学医学部精神神経医学講座 助手
(2005年に大学合併により「富山大学」に大学名変更)
- 2006年 富山大学大学院医学薬学研究部(医学) 神経精神医学講座 助手
- 2007年 富山大学大学院医学薬学研究部(医学) 神経精神医学講座 助教
- 2007年 客員研究員としてメルボルン大学メルボルン神経精神センター(オーストラリア)に研究留学(2年間)
- 2012年 富山大学附属病院神経精神科 講師
- 2014年 富山大学大学院医学薬学研究部(医学) 神経精神医学講座 准教授
(2019年に学術研究部医学系に組織変更)
- 2024年 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座 教授

mission

家元で理想を超える家づくり



理想のライフスタイルに合わせた完璧な住まい

私たちは、お客様一人ひとりのライフスタイルに寄り添い、最適なデザインを提案します。家族の夢、趣味、日常の小さな瞬間までを考慮した、唯一無二の住まいを創り上げます。

人や環境にやさしい高性能な家づくり

私たちの家は、地球環境に配慮した最新の技術を取り入れています。エネルギー効率の高い設計、再生可能エネルギーの活用、自然素材の選定など、持続可能な未来を見据えた家づくりを実現しています。

技術力の高い職人たちが支える確かな品質

高い技術力を誇る熟練の職人たちが、細部にまでこだわりを持って施工します。長年の経験と確かな技術で、お客様の期待を超える住まいをお届けします。



お問合せ 詳細な情報やモデルハウスの見学をご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

<https://kanazawaiemoto.jp>

076-255-1201



株式会社家元 石川県金沢市問屋町1-27-1

【建設業】石川県知事許可(般-1)第17091号
【一般建築士事務所】建築設計事務所 意匠庵 / 石川県知事許可 第13806号
【宅地建物取引業】Find.r / 石川県知事(1)第4223号



美しい人になる
家元の家。

全国から訪れる人が後を絶たない、石川県金沢市にあるすしの名店「小松弥助」。「一生に一度でいいから、森田大将が握るすしを食べてみたい」と願いつつを頼りに極めて予約困難な席を何とか確保し訪れる人が少なくない。(※初来店では予約ができない紹介制) そこまで人々を魅了する理由はどこにあるのか? 幸運にも、筆者は10年以上にわたり「小松弥助」を訪れており、プライベートでも親交があるため、これまでの経験をもとに、93歳になった今でも輝き続ける森田大将の不思議な魅力と、健康の秘訣について紐解いていく。



93歳現役すし職人、「小松弥助」森田一夫

健康の秘訣は好奇心

取材・執筆:フードライター 長坂 紅翠香

太陽のような存在感、森田一夫氏の魅力

弟子からも常連客からも「おやっさん」と慕われる大将の森田二夫氏は、1931年3月24日生まれの93歳。2025年3月には94歳を迎えることになる。

付け台ですしを握る姿は意気揚々として太陽のように輝き、訪れる人に活力を与えてくれる。まるでパワースポットのような人。「今、美味しいおすし握るからな」と、優しい笑顔と共に手から手へとすしが置かれる特別な瞬間が訪れる。これが小松弥助の「ハンド・ト・ハンド」「バート・ト・ハート」のコミュニケーションシジョン手法だ。

90歳超えのおやっさんは大食漢

時折プライベートをご一緒させていただく中で、「一般的に言う『健康に気を使った食事』をしている人だと思っただけが一度も無い。」

お酒はたしなむ程度でタバコは吸わないが、90歳超えとは思えない食欲と食事に驚かされる。

ピザやパスタといったイタリアンでも、フレンチでもカレーでも、どのジャンルも好き嫌いはなく、当然和食も好き。

金沢のステーキハウス「六角堂」

に行く、私が脂の少ないヒレを選ぶ方で、おやっさんは能登牛プレミアムの霜降りロースを注文する。私の胃袋ではとうてい受け付けられそうもない部位だが、おやっさんはあつという間に完食。職人さんが大きな鉄板の前で肉を焼き上げる所作に見入って、出来上がり待ち構え、気持ちよく食べる。さらに大盛りのガーリックライスも当然のごとく平らげ、ご満悦。これが通常だ。

ちなみに、毎朝7時に起床するおやっさんの朝食は、コーヒーショップでのコーヒーとトーストがマスト。朝は洋食と決まっている。

すし屋を営む家に生まれたおやっさんは、神戸市出身。神戸は西洋文化が根付いた街で、幼少期からコーヒーマニアは身近な存在で、喫茶店が日常に溶け込んでいたのだろう。

そしてコーヒには砂糖を2個人れるのが常。これがおやっさんの朝の始まりだ。

好奇心が生む無限のエネルギー

旅行に出かけるのも大好きで、秋口には「九州

の離島に行くんだ」と心ときめかせていた。歌舞伎を観に行くのも大好き、車はレクサスが好き。最近も新しい旅行バッグを買って「今まで弥助に来てくれた人に会いに行く旅もしたいんだ」と、旅行計画の話が尽きない。



おやっさんの健康には、「精神の健康」が影響していることはいままでの間もない。

幾つになっても大好きなことに素直に、「観てみたい」「食べてみたい」「行ってみたい」という強い好奇心が年齢を凌駕している。

その夢こそがおやっさんの健康を支え、エネルギーの源になっている。

令和6年能登半島地震、豪雨災害において、犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。

また、被災地における復旧・復興活動などにご尽力されているすべての方々に深く敬意を表します。

Special Thanks

【広告掲載企業】

株式会社 スギ薬局

スギメディカル株式会社

株式会社 DCP ソリューション

株式会社 MCS

株式会社 石川コンピュータ・センター

みづほ工業株式会社

株式会社 ファイネス

ディレクト株式会社

株式会社 クオンヘルスケア

丸文通商株式会社

株式会社 福光屋

株式会社 宗重商店

株式会社 家元

【協賛企業】

料亭 つば甚

株式会社 富士タクシー

株式会社 キョー・エイ、加賀種食品工業株式会社、室野硝子株式会社、株式会社 みづほ室内工業、株式会社 山崎、有限会社 ソフトAZ、

司法書士松永美里事務所、株式会社 岸グリーンサービス



医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

石川県

金沢大学附属病院
 金沢医科大学病院
 石川県立中央病院
 金沢市立病院
 石川県立こころの病院
 加賀市医療センター
 公立河北中央病院
 公立穴水総合病院
 公立宇出津総合病院
 公立つぎ病院
 公立能登総合病院
 公立羽咋病院
 公立松任石川中央病院
 国民健康保険 小松市民病院
 市立輪島病院
 珠洲市総合病院
 町立富来病院

能美市立病院
 石川県済生会金沢病院
 独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院
 金沢聖霊総合病院
 金沢赤十字病院
 独立行政法人国立病院機構 医王病院
 独立行政法人国立病院機構 石川病院
 独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
 独立行政法人国立病院機構 七尾病院
 社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター
 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院
 医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院
 医療法人社団浅ノ川
 心臓血管センター金沢循環器病院
 医療法人社団浅ノ川 千木病院
 医療法人社団光仁会 木島病院
 医療法人社団慈豊会 久藤総合病院

医療法人社団 下崎整形外科医院
 医療法人社団橋会 整形外科米澤病院
 医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院
 医療法人社団博友会 金沢西病院
 医療法人社団藤聖会
 金沢メディカルステーション ヴィーク
 国家公務員共済組合連合会 北陸病院
 小松ソフィア病院
 社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院
 社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院
 医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院
 医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
 特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院
 特定医療法人社団勝木会
 やわたメディカルセンター
 公益社団法人 石川勤労者医療協会
 城北病院

『通いたくなる場所』をデザインする

DIRECT 株式会社 / DIRECT 建築設計事務所

富山県

富山大学附属病院
 富山県立中央病院
 富山市立富山市民病院
 あさひ総合病院
 射水市民病院
 かみいち総合病院
 黒部市民病院
 公立南砺中央病院
 富山県リハビリテーション病院・
 こども支援センター
 高岡市民病院
 南砺市民病院
 公立学校共済組合 北陸中央病院
 独立行政法人国立病院機構 富山病院
 独立行政法人地域医療機能推進機構
 高岡ふしき病院
 独立行政法人労働者健康安全機構
 富山ろうさい病院
 富山県済生会高岡病院
 富山県済生会富山病院
 富山赤十字病院
 医療法人財団恵仁会 藤木病院
 医療法人社団秋桜 丸川病院
 医療法人社団尽誠会 野村病院
 医療法人社団藤聖会 富山西総合病院
 医療法人財団五省会 西能病院
 富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
 富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院

福井県

福井大学医学部附属病院
 福井県立病院
 市立敦賀病院
 独立行政法人国立病院機構 あわら病院
 独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター
 福井県済生会病院
 独立行政法人地域医療機能推進機構
 福井勝山総合病院
 福井赤十字病院
 医療法人福井心臓血圧センター
 福井循環器病院





私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。

各種、医療機関、クリニックの処方箋応需



地域の健康維持・増進をサポートする 石川県庁前店



コミュニティスペース

血管年齢、筋肉量・脂肪量等がいつでも無料で測定可能。管理栄養士がカウンセリングします



介護ステーション

初めての介護の相談や介護用品の販売・レンタルまで福祉用具専門相談員が親切に対応します

中部・関西・関東・北陸・信州・
北海道・東北に出店エリア拡大中!

グループ合計

(2024年
6月末現在)
1,760店舗

関西 581店

北陸・信州 84店

北海道・東北 3店

関東 502店

中部 590店

■ 全社
売上高 **7,444.8** 億円 +11.5%
(年間計) 前期比

■ 調剤
売上高 **1,587.8** 億円 +11.5%
(年間計) 前期比

■ 処方箋
枚数 **1,475.9** 万枚 +14.3%
(年間計) 前期比

■ 訪問調剤
対応店舗数 **601** 店舗 +6.4%
(年間計) 前期比

■ 訪問調剤
患者数 **189,109** 名 +7.4%
(年間計) 前期比

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索